

3. 流域の社会状況

3-1 土地利用

白川は熊本県の中央部を流れる河川で、関係市町村は1市5町4村におよんでいる。

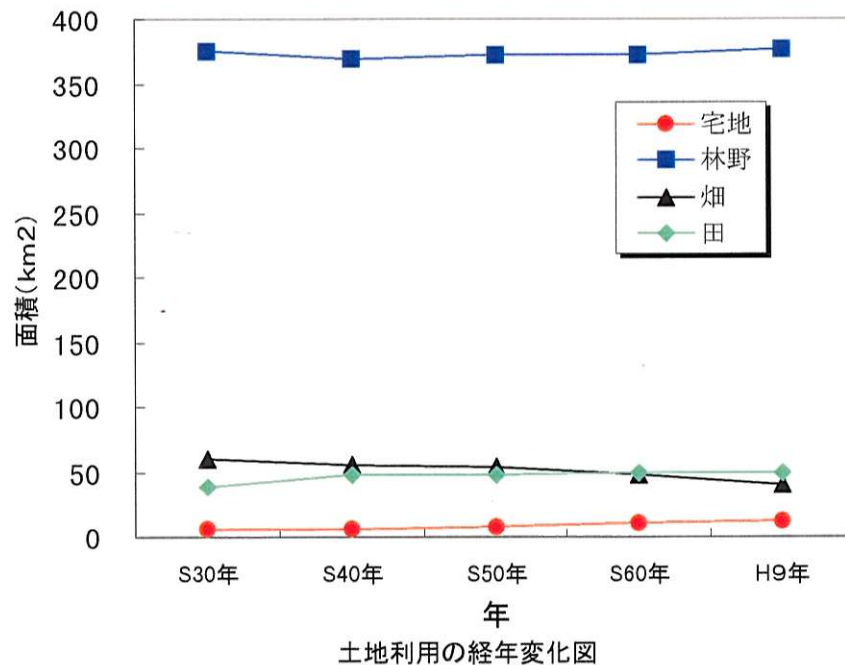
白川は流域の8割が阿蘇・くじゅう国立公園で占められており、土地利用は大半が山林と水田・畑・果樹園等の農用地であり、その割合は平成9年で約78%となっている。

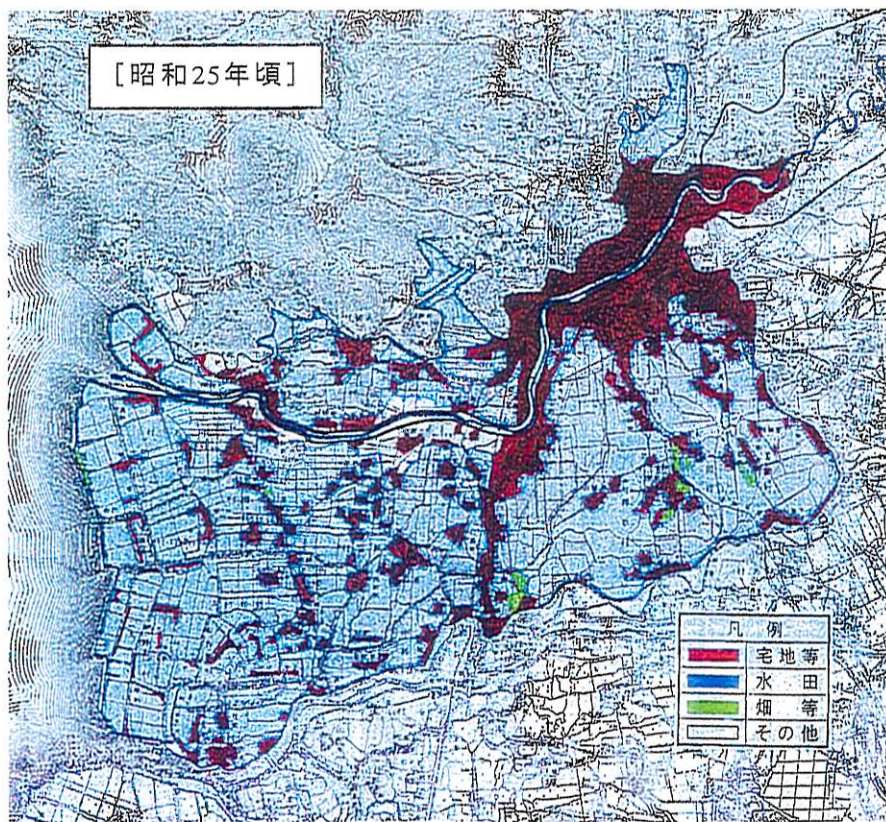
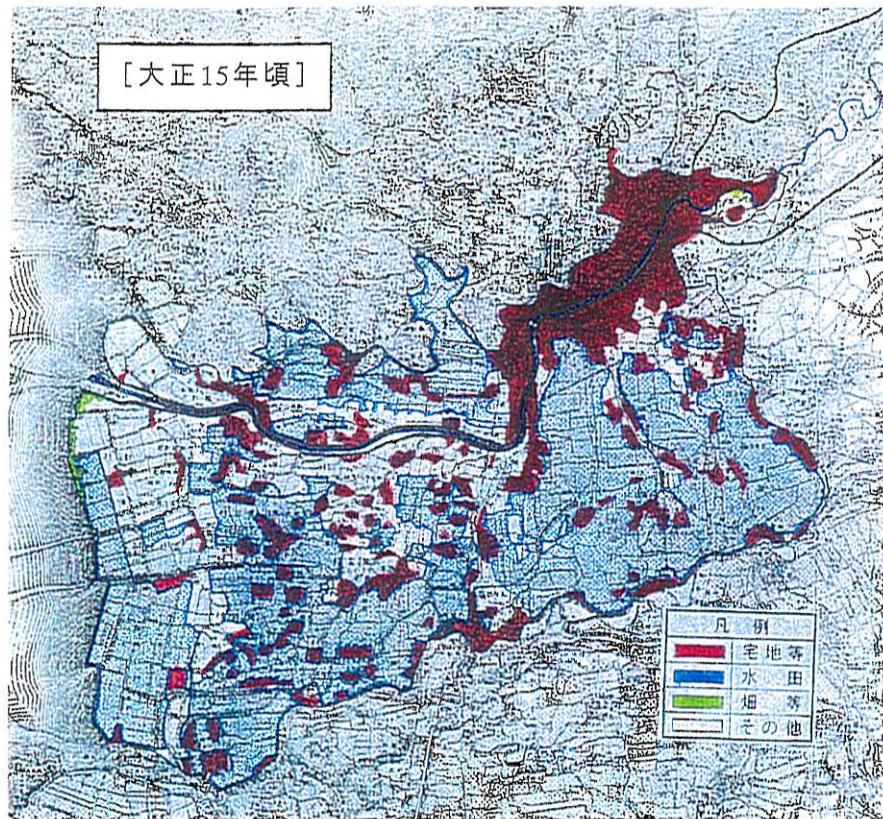
流域内の宅地面積の変化は少ないが、想定氾濫区域の大半を占める熊本市周辺での都市化・宅地化の進展が著しい。

土地利用の経年変化

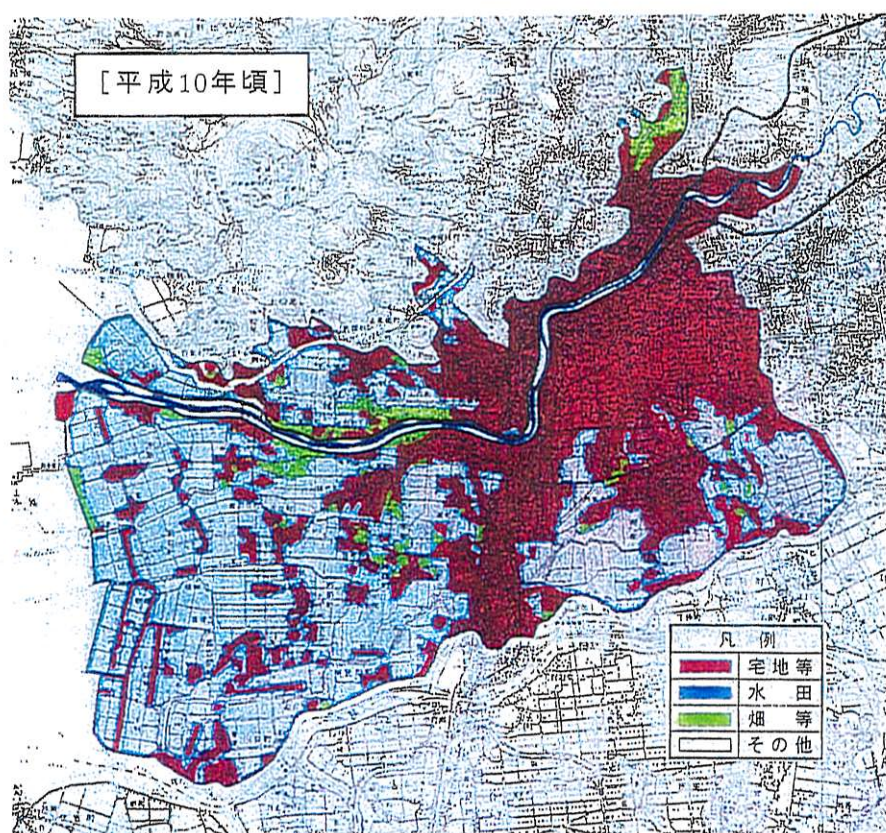
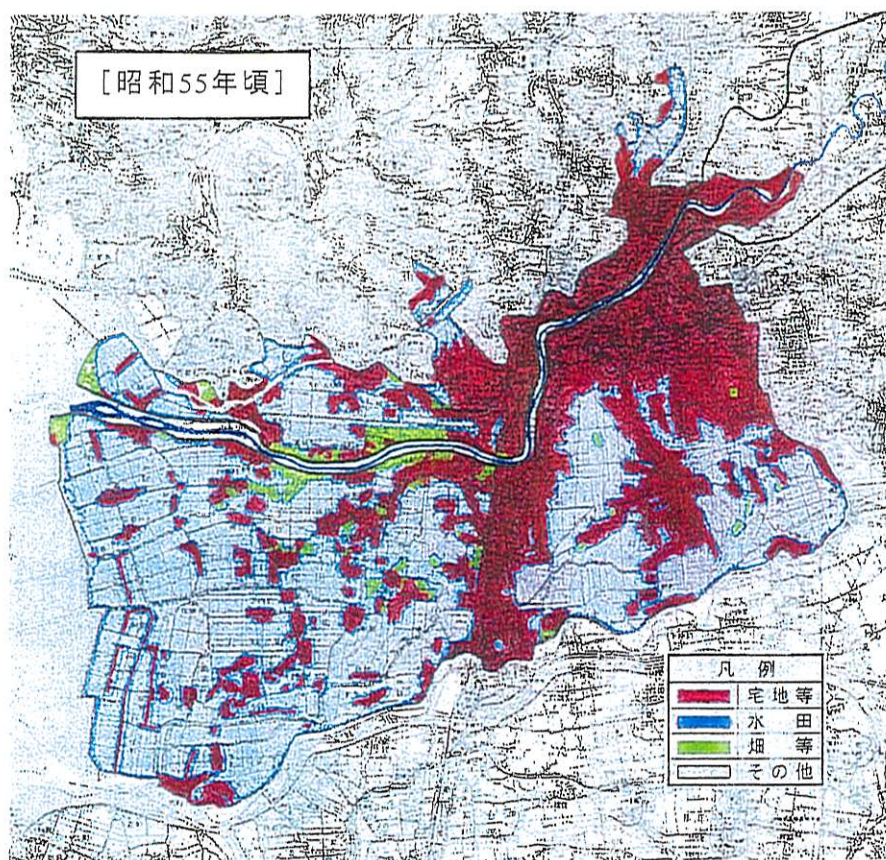
年次 地目	昭和30年	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成9年
総面積 (km ²)	480.0	480.0	480.0	480.0	480.0
宅地 (km ²)	5.9 1%	6.8 1%	7.8 2%	10.2 2%	13.0 3%
林野 (km ²)	375.9 78%	369.7 78%	372.0 78%	372.9 78%	377.6 78%
田 (km ²)	38.3 8%	47.6 10%	47.0 10%	49.4 10%	49.2 10%
畑 (km ²)	59.9 12%	55.9 12%	53.1 11%	47.5 10%	40.2 8%

* %は全面積に対する各地目面積の割合





土地利用の経年変化図(白川洪水防御対象氾濫区域)



土地利用の経年変化図(白川洪水防御対象氾濫区域)

3-2 人 口

白川流域は、九州中部の中核都市である熊本市を擁し、大津町、長陽村、阿蘇町、高森町など1市5町4村からなる。流域関係市町村の総人口は、平成7年で758,242人であり、このうち熊本市が約86%の650,341人を占める。

なお、流域内に限定すれば約13万人の人口（平成2年）である。白川と最も関係の深い熊本市の人口の推移は昭和50年が448,166人、昭和60年が555,719人、平成7年では650,341人となり急速な人口の伸びを示している。

人口の推移

年次 区分	昭和45年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成7年 (人)	人口密度 (人/km ²)
流域内人口	98,260	109,232	(3.4%) 112,997	(-6.0%) 102,650	(18.8%) 129,776	() -	270.3
流域関連市町村 1市5町4村	531,092	578,573	(15.9%) 624,153	(22.3%) 658,466	(26.9%) 683,516	(40.8%) 758,242	691.4
想定氾濫区域内 人口	243,705	212,398	233,223	216,760	220,626	-	-
熊本県	1,700,229	1,715,273	(4.4%) 1,790,327	(7.1%) 1,837,747	(7.3%) 1,840,326	(8.4%) 1,859,793	251.2

(注1)人口密度

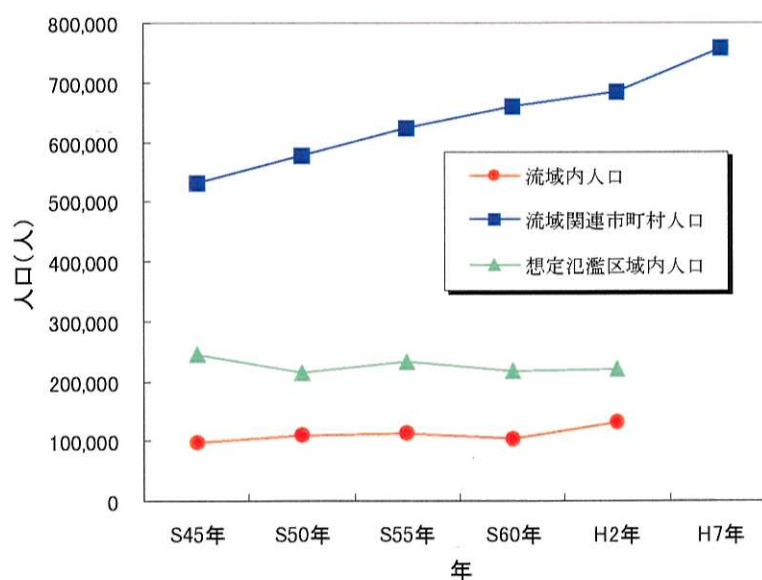
流域内：平成2年

1市6町3村， 県：平成7年

(注2) () は昭和50年からの増加率

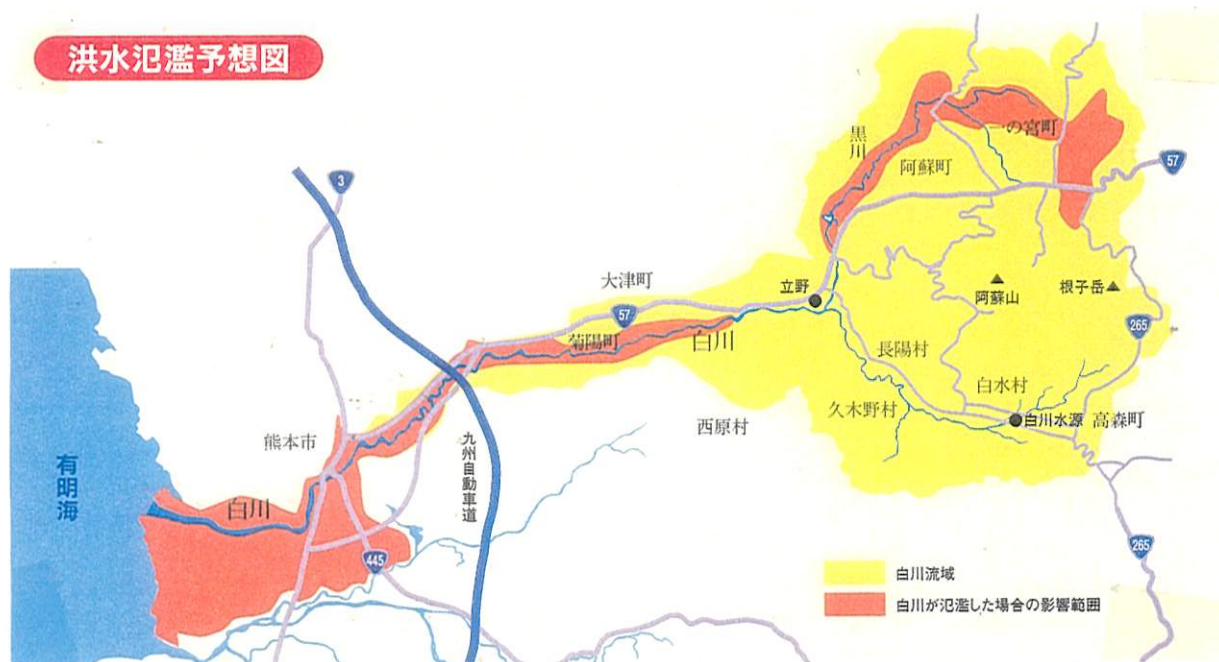
出典： 流域内人口：河川現況調査

1市5町4村及び各県の人口：総務庁統計局「国勢調査」



土地利用の経年変化図

洪水氾濫予想図

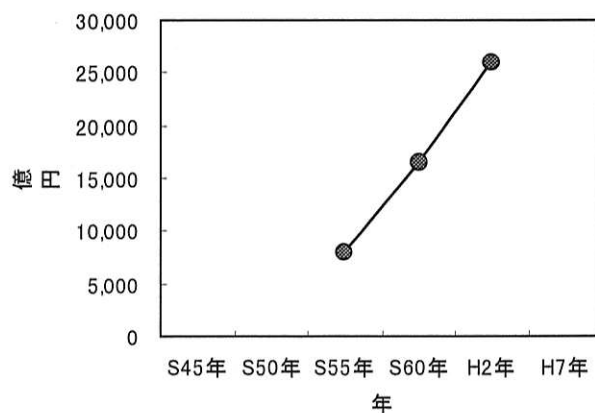


3-3 資産額

白川の想定氾濫区域内の資産額は、土地利用の高度化にともない徐々に増大し、平成2年現在で約2兆6千万円にもなっており、昭和55年時点の3倍強となっている。

想定氾濫区域内資産額（百万円）

年	家屋	家財	事業所	農漁家	合計
S55	394,654	157,397	231,318	16,995	800,364
S60	585,725	589,284	462,458	13,621	1,651,097
H2	1,242,076	379,071	973,879	12,555	2,608,211



想定氾濫区域内の資産額の経年変化図

3-4 産業経済活動

流域の産業は熊本市を除く大半の地区は第一次産業が主体で、特に上流域では肥後の赤牛として知られる放牧牛の畜産が盛んである。

第2次産業の生産額で顕著な大津町では 37.4%を占めており、白川中流域の工業整備の成果といえる。また、菊陽町は熊本市に隣接しており、第3次産業の生産額が 50%近くを占めている。

一方、熊本市の平成8年の製造品出荷額をみると、約 6,100 億円で県全体の約 22%を占め、中九州経済圏の主導的役割を果たしている。

3-5 交通

産業の基盤となる幹線交通系統には、南北に走る JR 鹿児島本線と国道 3 号及び昭和 50 年に開通をみた高速道九州縦貫道があり、東西には白川に沿う JR 豊肥線、JR 国道 57 号があつて熊本市を拠点として地域発展に大きく貢献している。

昭和 39 年 10 月に九州横断道路、昭和 41 年 9 月に天草五橋が開通すると阿蘇天草の観光客数が激増した。観光コースとしては、別府～阿蘇～雲仙を結ぶ東西方向の観光ルートに加えて、博多～熊本～鹿児島の南北方向のコースが開発された。

熊本県は地理的に九州の中心的位置にあり、また優れた自然景観に恵まれていることから、熊本市周辺の観光は今後大いに発展が期待されるものと考えられる。

3-6 将来構想

白川下流域に位置する熊本都市圏は県の産業、経済、教育、文化、行政などの多くの面で牽引的な役割を担い、広い分野で拠点的な役割を果たしている。今後は流通拠点づくりとテクノポリス計画が推進され、地域の拠点として重要性が高まるものと思われる。

上流域は阿蘇の特性を活かした地域づくりが計画されており、多用なニーズを満たすリゾートづくり、高原型農業の振興等が計画されている。

●総合交通体系図

- 高速道路
- 国道（国管理）
- 国道（県管理）
- 主要な県道
- 九州新幹線
- ✈ 空港
- ⚓ 重要港湾
- ⚓ 主な地方港湾
- 白川流域

